



## 天然記念物

### 76. 黒峰の林叢

■指定年月日 昭和41年1月7日(1966)

■指定面積 992m<sup>2</sup>

■所在地 若山町南山

■所有者 みなみやま 南山区

黒峰は宝立山の別称であり、山頂を覆う広葉樹林が、遠方からひと際黒々として見えることに由来する。宝立山は、北から宝嶺山・宝立山(丸山)・黒峰山の三峰からなり、最高峰の宝嶺山(標高471m)の山頂周辺が指定区域となっている。

林内の上層は、ブナで覆われており、むなだか胸高直径が90cmを越す老樹も見られる。中層には、ミズナラ・アズキナシ・ミネカエデなどが混じり、下層には、オオカメノキ・エゾユズリハ・チシマザサが多く、オオバクロモジ・ツルシキミ・ヒメアオキ・タムシバ・ヤマソテツなどが見られ、このブナ林は、日本海側によくみられるブナ-オオバクロモジ群集に属するものと考えられる。

ブナの若木は林の中で育つ陰樹であるから、老木が枯死してもブナ林は永続するが、伐採されると、若木が陽樹のクリ・コナラなどが優位となり、ブナ林の復原は困難という。

ブナ林は、温帯夏緑広葉樹林の分布域の主要な樹林で、能登半島では標高300m以上の高度帯に広く存在したと推察されているが、今では宝立山や高洲山などの山頂部に、わずかに残されているにすぎない。